

コラム

・・・釣り、今昔・・・

昔は、よく釣れた。ヤマメをはじめ、ウグイ・ドンコ・ヤツメウナギなどがきれいな川の中で泳いでいた。ホトケドジョウは一度に2匹もつれ、みんなニワトリのエサになっていた。秋になるとサケが遡上し、部落の人たちで獲っていた。

が、今は、釣れない。あれほどあった清流は、今ではくるぶしのところぐらいになり、川底の石には茶色っぽい藻が付着しているのだ。

父は、釣りが上手だった。粗末な竹の一本竿を持ち、2時間ほどで50匹は釣ってきた。みんなヤマメで、母が吸い物にしてくれた。だしがよく出ていて、我が家のごちそうになった。

私は父の背中を見て、釣りをするようになった。

1960年代、大学のサークルは「溪流釣り研究会」だった。「釣れる！」情報が入れば、たびたび釣りの旅に出かけた。

知床のウトロ側にある遠別川では、ヤマメ・イワナを面白いように釣った。すでにサケが遡上していたのだろう、卵が岩に付着している。その卵を使うと、入れ食いだった。ググッと引くイワナは、竿先を弓なりにしてくれた。

ヤマメの稚魚が上流に向かいどんどん大きくなる7月頃、3人がテントを担いで音威子府（オトイネツ）に向かった。1～2本の小さな川に3人が同時に入るのだが、釣れるわ釣れるわ！3人とも魚籠をいっぱいにして戻ってきた。夕飯は、そのヤマメを素揚げにしたものだ。嫌になるほど食べた。朝も、その残りだった。

職について2年目の夏、帰省した折に「夢よ、もう一度」と、一人で出かけた。現場に着いてみると、明るい草原になりサンサンと太陽が照りつけているのではないか。釣り糸を垂れても、ビクともしない。暑く、喉が渇き、疲れだけがいっぱいになった。

雄冬は、当時は秘境といわれ、船でしか行かれなかった。ヘビが多いが、イワナが釣れるという話を耳にした。電車に乗り、増毛に向かった。翌日、道路工事のダンプカーの荷台に載せてもらい、川のそばで下ろしてもらった。岩登りをするような感じで、やっと足場の良い所に出た。でっかいイワナが悠々と泳いでいるのではないか。急いで竿を出し糸を垂らすが見向きもしない。もう少し近づこうとすると、ヘビが、どくろを巻いてこちらを見ている。イワナは釣りたし、ヘビは怖し。あきらめて上流に向かう。大きいイワナが水面から上がってくる！エサをつけるのももどかしく、竿を振る。魚籠が重くなる。が、また行く手にヘビがいるのだ。降参して、竿を納めた。ふり返るとV字谷の先には日本海が広がり、一隻の船が横切った。まるで浮世絵をみているような美しさだった。

ヘビさえいなければあの尺物のイワナを釣ったのに、と充実感に満ちていた。だが、前日の宿探しは、大変だった。「お寺に泊めてくれるよ」という話を聞いていたのだが、住職に罵声をあび、雑貨店の女将に紹介されたお堂で寝ていると、ヤモリ・カマドウマ・ネズミが動きまわる。怖くなって、近くの民家のドアをたたくと、「泊まれ」と、飯とお風呂をいただいた。船が出る頃、奥様は、見送りにきてくれた！

コラム

・・・宝物のある田んぼ道・・・

私の家から手賀沼の田んぼが見えます。9月に入ると、コンバインのエンジンの音が響いてきます。黄金の稲穂が刈り取られ稲株がどんどん増えていく光景を見ると、私は田んぼへ無性に行きたくなります。

夏の猛暑を過ぎ、涼しさが少しずつ感じられるようになることもあります。が、それ以上に、田んぼには宝物がいっぱい見つかるからです。

愛用の自転車をゆっくり進めていくと、農道の脇で籾殻を燃やしているところを見つけました。宝物、発見！籾殻の灰は、畑の肥料として、頂いていきます。炭になった黒い所と燃え切って灰色になった所を混ぜ込んで容器に入れ、畑に運びます。灰を頂きながら、どうして田んぼの真ん中で燃やさないのか、不思議でたまりません。江戸時代には、農家の人がかまどの灰を買っていったと聞きます。今でも、ホームセンターには売っています。邪魔者のように風雨にさらされている籾殻の灰を見ると、かわいそうでしかたありません。

藁は、のらえもんではしめ縄に利用しています。作物を栽培するとき、藁で日影をつくって土の乾燥を防いだり雨水の跳ね返りを防いだりします。野菜を寒さから防ぎ保存する野にも使われていました。また、腐りやすく肥料としても優れているのです。でも、藁は、なかなか手に入りません。ほとんどはコンバインで切り刻み、田んぼの肥料にしているからです。大雨のときに、それらが農道に流れ出し、車にひきつぶされていることがあります。ラッキー！丁度良く腐りかけています。手でいねいに集めます。そんな時、「もったいないなー！」「早く畑へ運んでやるからな！」と話しかけているような気分です。

冷たい雨が降り冬が迫る頃、稲の切り株からはひつじ（刈り取った後に再生する稲、ひこばえ）が成長し、花を咲かせて籾をつけています。この籾はほとんど中身が無く、スズメは見向きもしないのです。が、のらえもんは、重たそうな籾を狙っています。しめ縄の飾りに使うためです。これだけは田んぼに入らせてもらい、鎌でサッサッと刈のです。見回して、近くに誰もいないことを確かめてからですが。

コンバインが入る田んぼには、たくさんの野鳥が飛来します。スズメ・ムクドリ・ハクセキレイ・タヒバリ・カラス、そして大型のコサギ・ダイサギだ。コンバインの回りで逃げることもなくエサをついばんでいる光景は、人と自然との共生を見るようです。私の大好きな光景の一つなのです。

宝物は、これだけではありません。農道に生えている野草です。四つ葉のクローバーを探すのですが、一度も見つけられていません。赤まんまや野菊・血止め草などは、押し花で使えそう。マジックテープのヒントをもらったというオオオナモミは、フェルトにくっつけて遊べそう。田んぼの水たまりにいるタニシやプランクトンは、水槽に入れておこう。用水路に網を入れると、エビやグッピーがたくさん捕れます。大きな用水路では、オオバンやコブハクチョウがのんびりと泳いでいます。

農道は、私にとってワクワクするフィールドなのです。見る物すべてが私と一体化し、私に精気を与えてくれるのです。だから私は田んぼの風景が好きだし、いつまでもこの風景が持続することを願っています。